

リファイン・ダイニング2010への招待状

リファイン・ダイニングに参加してみませんか

食事をするという行為は、ライフスタイルや社会、民族性や伝統が凝縮されたものといえるでしょう。そこには、様々な意図や儀式的側面、そして役割といったものが存在しています。基本的な目的はもちろん身体に栄養を補うことであり、さらに、精神を充足させることにあるのです。

しかし過去100年において、人々が食事をする時間、食べる料理、そして食べる場所さえも大きく変わってきています。たとえば20世紀半ばまでは、食事はテーブルや燃えさかる炎を囲んでおこなう、落ち着いた社会的コミュニケーションであったと言えます。



現在では対照的に、独りで食事することもめずらしくはなくなりました。そして食事の間にもインターネットをしていることもあります。また、習い事やミーティングの合間、運転しながら食事することも目につくようになってきました。キッチンのテーブル、テラスやビーチ、サッカー場の観覧席での食事の他、レストランやカクテルパーティでの食事も普通です。また、昔ながらに燃えさかる炎を囲んで食事することもあります。

しかし、どのようなかたちであれ、食事をすることは重要な時間であることは変わりません。私たちは食べ物を通じて物事を共有し、つながることができます。

こうした変化によって、革新がうながされていきます。私たちは、「どうしたら食事体験をより良いものとするだろうか」と、問いかけたいのです。

食事を作る、共有する、そして食べるという体験を向上させるコンセプトを求めています。感性、機能、感情といった側面において、そのコンセプトはどのように向上を達成するかを、考えてみてください。見た目の美しさ、感性の喜び、人間工学に基づいた使いやすさ、保温性や機能、構造などに思いを巡らせてみてください。貴方が考える、「食卓の情景」を映し出してほしいのです。現代社会において多様化するライフスタイル、文化や社会的側面における食事というものの本質的な変化を、よく考察してほしいと思っています。

背景

2009年、World Kitchenでは初のデザインコンペであるTEA-OFF!を開催しました。コンペには世界各地から240を超える参加申込みがあり、その内容は非常にハイクオリティなものでした。私たちはそこから3つの素晴らしい受賞作品と、25の佳作作品を選出しました。発表は3月に開催されたInternational Home + Housewares Showでおこなわれ、その革新的なデザインの数々は、メディアの注目を集めました。

the [Rules](#).)

この成功を受け、私たちはこの国際デザインコンペを毎年開催することにしました。このコンペは、私たちが掲げるメインテーマ、「What's Bubbling?」イノベーション・プロジェクトの一環としておこなわれます。コンペのテーマは、毎年異なるものを用意する予定です。もちろん、原則は変わりません。デザイナーは、コンセプトデザインの所有権を保持します。（所有権の第一先買権はWorld Kitchenが保持するものとします。このほかの内容については、条件規約をお読みください）

審査方法は、すでに確立されています。コンペでは、豊富な実績を持つデザイナーたちが作品の審査にあたります。そして、その時のテーマと理念を十分に表現しているかどうか、審査基準となります。受賞作品には、5,000USドルの賞金が授与され、2010年3月14日から16日までシカゴでおこなわれるInternational Home + Housewares Showにおける授賞式にご出席いただけます。出席のための費用は、もちろん当方で負担いたします。また、マスコミやウェブサイトで作品紹介がおこなわれます。

World

Kitchenを代表して、貴方からの出品をお待ちしています。どうぞまず、条件規約からお読みください。また、概要セクションは、コンペ出品においてお守りいただきたい事項を示した重要なセクションとなっています。

そして、貴方の作品とWorld Kitchen LLCの力を一つとして、食卓の風景を変えていきましょう。

Craig Sampson

クレイグ・ Sampson
Chief Innovation Officer

チーフ・イノベーション・オフィサー

追伸：本年の作品出品は、ウェブサイトによるオンライン出品となっています。締切りは、2010年1月6日午後11時（アメリカ中部標準時）です。

グローバルなデザイン・コミュニティの一員として、貴方も食事をするという行為を注意深く見つめ直し、変化をつかみ、そこに革新的な変化をもたらすという目標に向かって進んでみませんか。その結果によって、デザインというものが持つ力と重要性が、業界関係者だけでなく、広く一般社会においても再確認されることになるでしょう。

敬具



Craig Sampson, Chief Innovation Officer

クレイグ・ Sampson チーフ・イノベーション・オフィサー

本資料をPDFファイルにてダウンロードする場合は[ここをクリック](#)します。